

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和02年 3月 1日

事業所名 スタジオそら綱島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切であるか	8	1	予約の時点で人数調整をし、スペースを共有して支援を行っている。	予約の段階で、子供の組み合わせを考え、スペースが確保できるような人数の調整を行っている。
	②	職員の配置数は適切であるか	5	4	人数がぎりぎりの場合には、フィードバックを母子同室で行っている。	出勤人数では無く、配置人数で算出すべき。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	7	お子さんの刺激にならないよう、刺激になる物を排除している。安全面を考慮して、角や段差にはクッションを設置している。	建物の構造上改善は難しい(壁がむき出し。階段が急。トイレ前に段差がある)マンパワーで補っている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	6	3	消臭剤を置いたり、常に換気を心がけている。	温度設定や換気など、いつも清潔を保てるよう今後も気を付けていく。
適切な支援の内容	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	8	1	月毎のスタジオ目標の振り返りを全体でおこない、次月目標に繋げる。	支援計画やモニタリングに職員全員が参加できるよう努めていく。
	⑥	保護者向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	9	0	保護者が閲覧できるように、目の付きやすいところに掲示している。	お話しする時間が少ない送迎対象児の保護者様などにはFB時に積極的に話す機会を設ける。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1	保護者が閲覧できるように、目の付きやすいところに掲示している。ホームページでも掲載している。	お話しする時間が少ない送迎対象児の保護者様などにはFB時に積極的に話す機会を設ける。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	3	スタッフ間で現場のフィードバックと情報共有をおこなっている。	第三者評価については、現在のところ行っていない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	3	スタッフ間で現場のフィードバックと情報共有をおこなっている。	内部研修、外部研修共に機会が少ないため、今後スタジオ内での研修を随時行っていくように努めていく。
業務改善	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	3	ASQに限らず、記録や会議、保護者様面談などで課題をみつける。	基準が統一化されておらず曖昧。現在会社全体で統一化を進めている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	3	同時刻利用の他児に影響しないよう部屋割や活動内容を考慮している。	基準が統一化されておらず曖昧。現在会社全体で統一化を進めている。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	スタジオ内の支援内容に限らず、他事業所やご家庭でどのような支援を行っているのか確認する。	支援に不安があった際に自己判断せず、日常的にガイドラインで確認する習慣をつける。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	定期的なモニタリングの実施。	支援計画に捕らわれて、偏った支援とならないよう注意。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2	基本的には個々に考えるが、難しいケースは全体で行う事もある。	朝礼や昼礼等で、当日行うプログラム内容を全体で共有していく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	スタッフ間で新しいプログラム内容の共有を行う。	活動内容の中でポイントを絞って実施、記録することが必要。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	0	個別と集団で難易度を調整し、参加者全員に意味のある内容にする。	予約や欠席状況により、予定していた組み合わせが不可能な場合の代替案検討。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	朝礼、昼礼、終礼と分け、対象者ごとにしっかり時間を確保する。	終わった後の振り返りまで実施が必須。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	スタッフ毎の所感や提案などをディスカッション形式で話し合う。	正確な記録を残すことが必要。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	事象を細かく記載し、情景が伝わるよう記録している。	記録内容やアセスメントが正確に伝達できることが課題。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	スタッフ個人で判断せずに全員で検討して行う。	スタッフ全員が顔を合わせられず、ニュアンスが誤って伝わることもある。

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和02年 3月 1日

事業所名 スタジオそら綱島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	②1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	該当児について、より理解しているスタッフを選出。	会議内容を正確に持ち帰り、共有することが必要。
	②2	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	2	必要に応じて対応	積極的な情報収集が必要。
	②3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	1	今後、必要に応じて対応。	重症心身障害のお子さんの受け入れがないため、回答出来ず。
	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	1	今後、必要に応じて対応。	重症心身障害のお子さんの受け入れがないため、回答出来ず。
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	必要に応じて対応。	積極的な情報収集が必要。
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	2	必要に応じて対応。	就学時に、書面等でお子さんの様子を共有するケースもある。
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3	必要に応じて対応。	お子さんのモニタリング時に定期的に情報共有を行っている。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	8	今後、必要に応じて対応。	現在は機会なし。今後、必要に応じて検討していく。
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	7	必要に応じて対応。	定期的に、管理者や児童発達管理責任者が出席している。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	フィードバックを情報交換の場として利用。	正確な記録を残し、スタッフ間共有が必須。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	5	保護者様に不快感を感じさせない言い方や提案を心がける。	現在プログラムとしての実施はなし。今後、必要に応じて検討していく。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	入会時に全て説明。お問い合わせなどにも適宜対応。	今後も、分かりやすい説明を行っていく。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	必ず保護者様と面談を行ったから支援計画の確定とする。	支援法を自己判断せず、ガイドラインをベースに考案する。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	フィードバック時、活動内容を一方的に伝えずにヒアリングもおこなう。	個別支援計画の面談や、日々のフィードバック以外にも積極的にコミュニケーションを図っていく。
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	8	必要に応じて対応。	今年度は保護者会の実施はなし。需要があれば今後検討していく。
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	ご相談や申し入れがあつてから可能な限り素早く個室面談などの機会を設ける。	今後も引き続き、迅速且つ適切な対応ができるよう努めていく。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	ホームページやメール等で随時知らせている。	スタジオ内掲示での発信を増やす。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	スタジオ内でも保護者様の前では他児の名前を伏せてお話しする。	今後も引き続き注意していく。
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	お子さんの特性に応じて、スケジュール提示の配慮をしている。	声量や話しの内容を場面や相手によって個々に判断するスキル。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	7	必要に応じて対応。	地域の行事に参加する等、今後検討していく。

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和02年 3月 1日

事業所名 スタジオそら綱島

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	訓練時、内容を掲示してお伝えしている。	各種マニュアルや訓練内容を把握できていない保護者様への説明が必要。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	避難場所を療育場所に使用し、会員にも慣れさせてもらう。	災害時の役割などをスタッフ間で決めておく。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0	必要に応じて対応。	非常時の対応方法の共有。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1	契約時に、書類の記入やヒアリングを行っている。	食育の企画時に可能な限りアレルギー対象の食品を使用しない。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	終礼時に共有している。	ファイリングしているが、過去の内容をさかのぼって確認する機会がない。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	会員とスタッフが二人きりになる環境を避ける。	定期的に研修の機会を設ける。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	1	必要に応じて対応。	事故防止などの場合は事後報告となってしまうことも説明が必要。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。